

## 休日を利用した公開講座の実施

大分県立中津工業高等学校  
「なんでもやり隊」実行委員  
岩男哲司・江口大司

### 1. はじめに

本校は、非常に活気があり、体育関係の部活動が盛んであり、放課後遅くまで練習をする声が響く学校である。しかし、最近では、体育系のクラブに所属する生徒数が減少している反面、運動以外に興味を持つ生徒の数が増えてきている。例えば、工業クラブ主催の「ロボット相撲」「ロボット競技」などは多くの生徒が参加し、県内は勿論、九州内においても上位に食い込む力をつけている。

このような中、週休2日制の導入により、部活動に参加していない生徒たちの間に、休日の過ごし方を考える気運が芽生えてきた。高校生たちが「小中学生も自分たち（高校生）と同じ思いで、何か休日の有意義な過ごし方を考えているのでは」との発想で始まったのが、公開講座『なんでもやり隊』であった。

以下に、公開講座『なんでもやり隊』について、その内容と、生徒たちの変化を中心に述べる。

### 2. 公開講座『なんでもやり隊』の内容

この活動は、学校5日制（完全週休2日制）になったことを機会に、昨年（平成14年度）の6月から始めた本校生各学科の有志約30名が講師となり、近隣の小中学生や保護者約180名を対象に実施した。内容は、日頃高校で学んでいる専門的知識を生かし、「ものづくり」を基本に【講義、実演、指導】をした

ものである。第1・3土曜日の午前中に、2か月ずつ四つの期間に分け、計16回実施した。

小中学生は、前年まで登校していた土曜日の午前中を「ものづくり」「おもしろ実験」で楽しく過ごすこと、高校生は、人に教える難しさを通しながら自分で問題を解決する能力や、専門的知識などを身に付けることを目標としている。

テーマは以下のとおりである。

#### ●第1日目

- ①「いろいろな電池を作ろう」  
思いもよらないもので電池を作る。
- ②「浮沈子を作る」  
ペットボトルの中の魚が上下する。

#### ●第2日目

- ①「キーホルダーを作ろう」  
美しい金属で、キーホルダーを作る。
- ②「形状記憶合金」  
「超低温の世界の体験」  
不思議なことがいっぱい。

#### ●第3日目

- 「パソコンを使おう」  
パソコンでプロ顔負けの作品を作る。

#### ●第4日目

- 「なんでもチャレンジ」  
①～③のテーマから一つ選択する。

- ①【料理にチャレンジ】  
中津工業OBのシェフによる料理教室

(家庭科棟調理実習室)

②【おもしろ探検】

- ・電子顕微鏡でミクロの世界を体験  
髪の毛や虫の複眼等を見る。

(材料技術科実習室)

- ・おもしろ化学実験  
葉脈でしおりを作る。

(化学工学科実習室)

③【パソコンを使おう (応用編)】

インターネットやワープロソフトを  
使ってみよう。

自分のオリジナル名刺を作る。

(4階コンピュータ室)



写真3 第3日目のようす「パソコンを使おう」

- ・インターネットを使ってペーパークラフト。  
事前に、どこのサイトに何があるかを入念に  
調べた結果、堂々と小中学生に指導できた。



写真1 第1日目のようす「いろいろな電池  
を作ろう」

- ・講師の高校生も少し緊張気味で指導中



写真4 第4日目のようす「なんでもチャレ  
ンジ」の「料理にチャレンジ」

- ・慣れない手つきで、一緒に料理を作る楽し  
いひととき。



写真2 第2日目のようす「キーホルダーを  
作ろう」

- ・プレゼンテーションソフトを使っての今日の講座  
の説明中。回を重ねるごとに上手くなっている。

### 3. 公開講座開始までの課題

多くの課題をクリアしながらのスタート  
であった。

第1の課題は、具体的な計画が持ち上がったのは平成14年度4月の中旬であり、さらに、過去においても県下での実施例がなく、休日開催という大きな課題があった。しかし、この活動に興味を示し、このような活動に是非参加したいという高校生が30名余りもいたことと、本校の校長の「工業高校の立派な設備

を有効に使いたい」との考えと相まって、「なんでもやり隊」実行委員会ができた。実行委員長は校長、場所は中津工業高等学校を借りるという組織でスタートすることができた。

第2の課題は、テーマ決めと講師の育成であった。初年度（平成14年度）は、全てが初めてということもあり、ある程度のテーマをこちらで決め実施することとした。施設・設備、各テーマの講師となる生徒の育成、専門的知識など各学科にわたり先生方の協力を得なければならないため、各学科間の協力体制の確立が重要となった。学科主任会議を開き、意見を出し合う中で「できることから始めよう」との意思統一ができ、具体的な内容の検討に入ることができた。

多くの理解者と良き助言者、さらに「何かをやってみよう」と思う多くの高校生の熱意があり、県下で初めての休日開催の公開講座をスタートさせることができた。

#### 4. 高校生の成長

ボランティアとしての講師の高校生は、年間16回の公開講座を担当するが、事前の準備に多くの時間を費やした。ボランティアとい



写真5 ミーティングのようす  
・役割分担、準備の日程、当日のタイムスケジュールの作成などを行っている。



写真6 開講に向けてのリハーサル

・話す場所、言葉、態度など細かなこともチェックしながらのリハーサルであった。

うことで、本来の学校の勉強、クラスの役割をやり終えた後の準備となり、大変であった。

##### (1) 4月

高校生が、講師として小中学生に接したり教えたりすることは初めてであり、全てが、教員主導でなければ進まない状況であった。開講に向けてのリハーサルも、付きっきりで行い十分に時間も取り、挨拶の文言、説明の文言なども教師が準備をした。また、準備するものは決まったが【誰が買いに行くのか】【何処にあるのか】【どのくらいいるのか】など、細かなことにとまどう状態であった。しかし、「なんとか成功させたい」「自分たちにも何かに真剣に取り組んでいるものが欲しい」という気持ちがあり、要領は悪いが皆な一生懸命頑張った。

##### (2) 5月

5月に入ると、「ここはこうしたいのですが」など、私たち教師に尋ねたり、生徒間でも、作業が遅れているところには叱咤激励や手助けをしながら作業を進めていくようが見受けられるようになった。

### (3) 7月

第1, 2日目のテーマが終了した7月からは, 自分たちが運営しなければならぬという意識が芽生え, 第3日目のテーマに向けての準備段階では, 数人が自主的に動き出した。

### (4) 12月

12月, 1月の最終班の講座では, 準備の段階から, 私たち教師の出る場面が著しく少なくなり, 自主的な活動らしくなってきた。その原動力は, 今までの6か月間の実績の自信もあるが, 参加した小中学生や保護者の方々, さらに地域の人たちからの「ありがとう」「楽しかった」の言葉にあったと思う。

### (5) 全てが終わって

「中津工業高校の生徒は子供たちに優しく接してくれる」「高校の今まで知らなかった素晴らしい面を見ることができた」「次は何があるのかな。土曜日が楽しみだな」さらには, 登校中の小学生から声を掛けられたり, 近所の人からも声を掛けられるなど, 地域からも認められているという誇りを持てたことも, 成長の原動力となったと思う。

### (6) 本年度の4月

2日目の平成15年度は, テーマ探し, 予備実験の内容, 準備の日程, 当日のタイムスケジュールなど, 全てのことを高校生に任せることとした。各テーマの責任者を決め, 以下

の目標を定め取り組んだ。

目標・3時間で終わる。

- ・講座中は小中学生が退屈な時間を作らない。
- ・必ず成功する。

現在, 6月の最初の講座に向けて最後の仕上げをしているところであるが, 自主的に活動しているので安心して任せられる。

この1年間で18歳らしい高校生に成長したことを感じる。

## 5. おわりに

小中学生さらに高校生たちが, ぼっかりと空いた月2回の日々を有効に使いたいという思いから計画を立てた「なんでもやり隊」であった。

いざ, この計画をスタートさせるのに, 多くの不安があった。

- ・長丁場を本当に無理はないか?
- ・高校生の賛同者が本当に多くいるのか?
- ・小中学生の受講者がいるのか?
- ・このテーマに興味を示してくれるのか?
- ・短い時間で満足のいく内容になるのか?

など, 多くの不安材料を抱えたスタートであったが, 高校生の熱意, 校長先生の励まし, 全職員の協力, さらには県教育委員会の理解があり, 多くの成果を残せたと感謝している。

最後に, この活動が, 本年度から部活動の一環としてスタートしたことも特記し, 報告とする。

## 続 資料日本工業教育史 拓殖大学名誉教授 小林一也著

国際化・情報科・少子高齢化などが教育の現場に大きな変化をもたらした平成期以降の工業教育をまとめ, さらに今後の展望も収録

A5判400ページ 予価4200円 2003年8月発行予定